

業務用単独加湿ユニット システム部材
交換用加湿エレメント

形名

PT-220CKE

取扱説明書

お客様用

この商品は、単独加湿ユニット カセット形の交換用加湿エレメントおよび給気除じんフィルターのセットです。

■ご使用の前に説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

なお、お読みになった後は、お使いになるかたがいつでも見られるところに保管してください。

■据付けは販売店・工事店様が実施してください。

■お客様ご自身では据付けしないでください。（安全や機能の確保ができません）

この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country. No servicing is available outside of Japan.

安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。



警告

誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性のあるもの



指示に従い必ず行う

取付けやお手入れの際は、必ず分電盤ブレーカーを切る
感電やけがの原因。



注意

誤った取扱いをしたときに傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

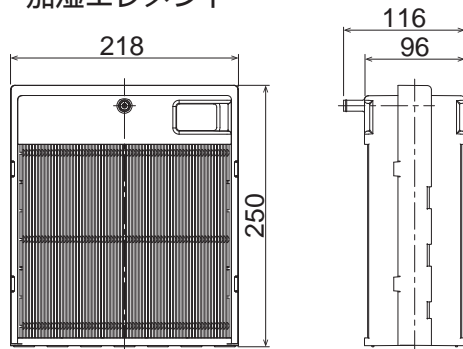


指示に従い必ず行う

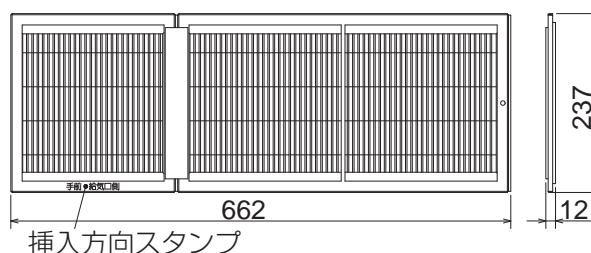
取付けやお手入れの際は、必ず手袋を着用する
けがの原因。

外形寸法図

・加湿エレメント



・給気除じんフィルター



単位 (mm)

形名	部品名	個数/台	適用本体形名
PT-220CKE	加湿エレメント	3	TKA-2200C-50
	給気除じんフィルター	1	TKA-2200C-60

*この加湿エレメント、給気除じんフィルターは、製品本体に組み込まれている部品と同一品です。

*梱包状態での保管可能期間は、通常雰囲気下で3年です。

取りはずし・取付けかた

※本体のドレン皿底面の説明銘板もご参照ください。

取りはずしおよび取付け方法の詳細はお手持ちの製品の取扱説明書をご用意いただき、該当部分をご確認ください。

メモ

製品の取扱説明書は、三菱電機パートナーWeb WIN²K（ウインク）でもご確認ください。

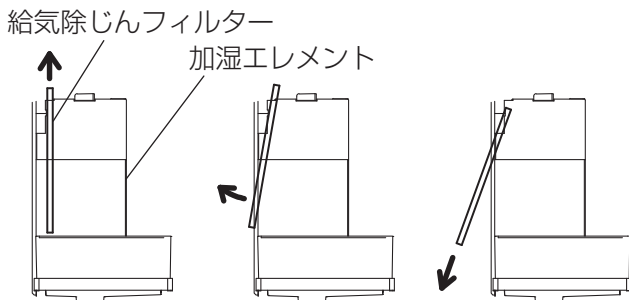
<方法>

1. 検索サイトで「三菱電機 WIN²K」を検索または、URL: www.MitsubishiElectric.co.jp/wink を入力します。
2. 《形名から製品情報を探す》に製品の形名を入力いただくと確認できます。

加湿部の引き降ろし

1. パネルを開ける。（開けかたは単独加湿ユニットの取扱説明書をご参照ください）
2. 加湿部下側にあるコネクタをはずす。（メンテナンス中の給水防止のため）
3. パネル外枠に取付けられているルーバーBの角度を調整する。
パネル外枠のストッパー位置にルーバーが当たるまで手で動かしてセットします。
（ルーバー角度を調整しないと、加湿部引き降ろしでルーバーが破損するおそれがあります）
4. 加湿部底板に取付けられた固定金具のねじ5本を緩める。
5. 加湿部底板を手で押さえながら加湿部固定金具を移動してはずす。（必ず加湿部底板を手で押さえてください）
6. 加湿部底板を手で押さえながら、動きが止まるまでゆっくりと引き降ろす。
7. サポートプレートのねじ部を加湿部底板の側面のカギ穴に引っ掛ける。
サポートプレートを動かすには、ダルマ穴に固定されているねじを上側に移動させると回転できます。
8. 本体内スライド穴の最下点から、少し上に持ち上げ、大きな穴位置に、スライド用ねじ3本を合わせ、加湿部全体を本体から床面に引き降ろす。
 - 加湿部底板に手を掛けながら、レの字を描くように移動させると加湿部全体が本体から取り出し可能です。

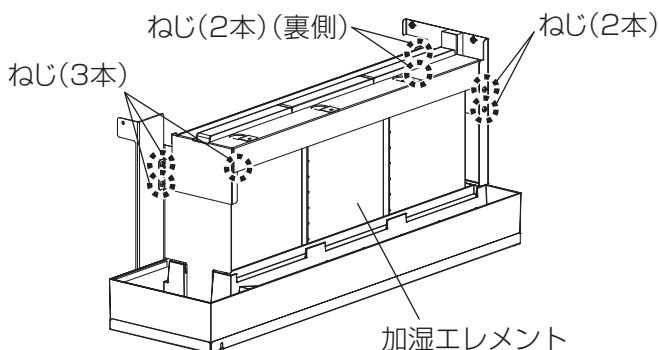
給気除じんフィルターのはずしかた



給気除じんフィルターを上側にずらした後、左斜め下側に引き抜いて取りはずす。

- 給気除じんフィルターを初めてはずす際は、給気除じんフィルターと加湿部がテープで貼り付けられていますので、はがしてから行ってください。

加湿エレメントのはずしかた

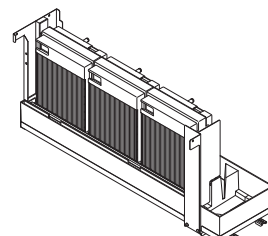
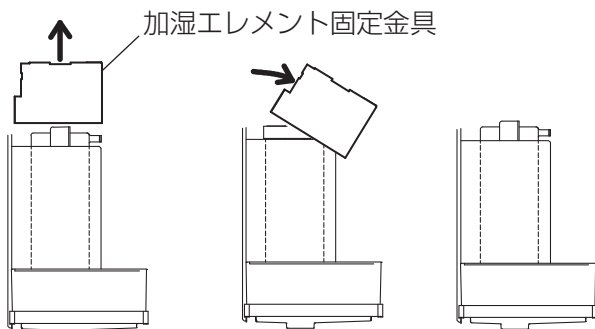


1. 加湿エレメント固定金具のねじ7本 (●部) をはずす。

- はずしたねじは、なくさないように保管をお願いします。

2. 加湿エレメント固定金具を上方に持ち上げ、右方向へ回転させて取りはずす。

<加湿エレメント固定金具取りはずし状態>

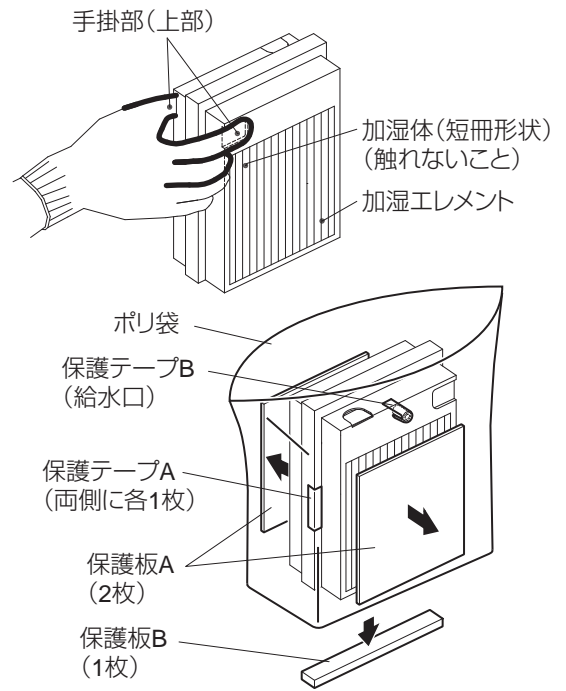


⚠ 注意

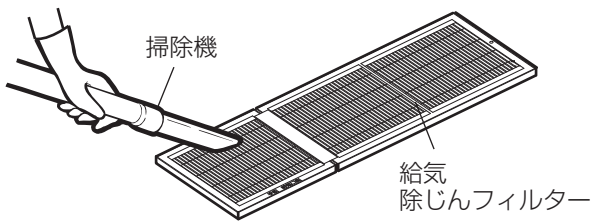
加湿エレメントの持ち運びや取付けの際は、手袋を着用する着用しないとけがの原因。

お願い

- 加湿エレメントを包む袋は製品へ取付ける直前に開封してください。また、臭気の強いところに保管しないでください。（汚れや臭いの付着を防止するためです）
- 加湿エレメントを持ち運ぶ際には、右の図のように加湿エレメントの手掛部をつかんでください。加湿体（白色部）に触れないでください。（破損や水漏れの原因となります）
- 取付けの前に加湿エレメントから右図のものをはずしてください。（輸送時・保管時の保護用です）



給気除じんフィルターの清掃のしかた



掃除機でほこりを吸い取る

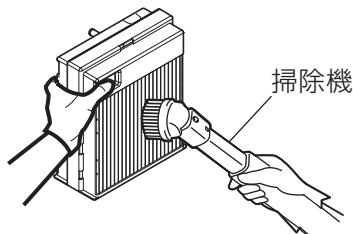
1. 製品の取扱説明書を参照して給気除じんフィルターを取りはずす。
2. 給気除じんフィルターの表面のゴミを取り除き、掃除機でほこりを吸い取る。（刷毛のない掃除機で表面をなぞるように吸い取ってください）
3. 製品の取扱説明書を参照して給気除じんフィルターを取付ける。

お願い

- 給気除じんフィルターを水や熱湯で絶対に洗わないでください。（フィルターの変形や破損の原因になります）
- フィルターや結合部のパッキンは、やわらかいものですので、掃除機等で表面を強くこすらないでください。
- 交換後（ご使用済み）のフィルターの廃却については、お客様の所轄地域の処理方法に従い廃却してください。

加湿エレメントの清掃のしかた

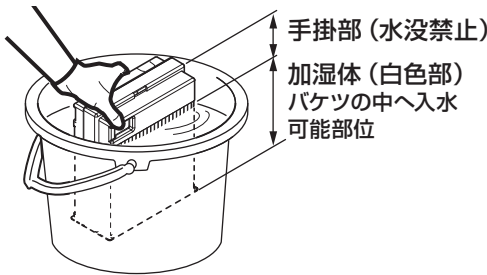
〈掃除機による清掃〉



加湿エレメント表面にごみ・ほこりが付着した場合は、掃除機で加湿エレメント表面を傷つけないよう吸い取る。

加湿エレメントの清掃のしかた つづき

〈洗浄剤による洗浄〉



加湿運転時に吹出し空気の臭いが気になる場合、通常は加湿運転とともに臭気は減少するため、臭い低減のための加湿運転を長時間（1日ほど）行う。

それでも臭いが気になる場合や汚れがひどい場合は、洗浄剤（クエン酸または過炭酸ナトリウム）によるつけ置き洗浄を行う。

（洗浄剤による洗浄は、正しい方法で行わないと洗浄効果の低下や加湿エレメントの劣化、製品故障の原因となりますので、ご注意ください）

1. 水またはぬるま湯に3Lあたりクエン酸20g（大さじ2杯）を溶かした洗浄液を用意し、加湿エレメント（高さ250mm、外寸218×116mm）が浸かるバケツ等の容器に加湿エレメントを入れ、用意した洗浄液を図の手掛部が水に浸からない高さ（高さ200mm）まで注ぐ。

※クエン酸は弊社サービス部品または市販品（界面活性剤や香料等が含まれない単一成分のものに限る）をご使用ください。

※40℃以上のお湯は使用しないでください。やけどや部品劣化のおそれがあります。

※洗浄液を注ぐ際、図の手掛部が水に浸からないようご注意ください。（内部の給水部にゴミが詰まり、性能低下の原因となります）

サービス部品番号	正味量
R50733710	134g
R50733711	134g × 10 袋

2. 洗浄液に加湿エレメントを2時間つけ置きする（水温目安20～40℃）。

※水よりもぬるま湯の方が、洗浄効果が高くなります。

※水温が低い場合は、つけ置き時間を長くします。目安は15℃で3時間、10℃で4時間です。

※洗浄液は使いまわしをせず、毎回新しいものをご使用ください。洗浄効果の低下や臭い移りの原因となります。

3. つけ置き後、加湿体が変形しない程度の水量で、加湿エレメントを流水でやさしくすすぎ洗いをします。

（すすぎ不足は加湿エレメントの劣化や製品の故障の原因となります）

4. クエン酸で洗浄を行っても臭いや汚れが気になる場合には、追加で水またはぬるま湯に2Lあたり過炭酸ナトリウム10g（大さじ1杯）を溶かした洗浄液を用意し、上記1から3と同様の方法で、つけ置きとすすぎ洗いを行ってください。

※過炭酸ナトリウムは弊社サービス部品または市販品（界面活性剤や香料等が含まれない単一成分のものに限る）をご使用ください。

※クエン酸で洗浄を行っていない場合は、先にクエン酸で洗浄を行ってください。

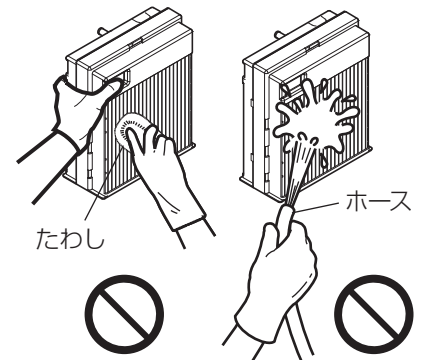
サービス部品番号	正味量
R50733712	100g
R50733713	100g × 10 袋

5. 加湿エレメントを製品に取付後、本体回路SW2-10をON→OFFの順で操作し、加湿エレメントの乾燥運転を2時間以上行ってください。詳しくは製品の据付工事説明書 試運転項目内の3項“単独加湿ユニット単独の試運転”をご確認ください。

（加湿エレメントを湿らせたまま放置すると、臭いが発生する原因となります）

お願い

- たわしでこすったり、ホースの水を直接かけたり、高圧洗浄機を使用しないでください。加湿エレメントが変形・破損するおそれがあります。
- 掃除機で清掃してもスケール成分（白粉）は全て落としきれません。白粉の付着が多く加湿量が少なく感じられる場合には、加湿エレメントを交換してください。交換時期の目安は裏表紙をご参照ください。
- 加湿エレメントは分解して清掃をしないでください。また、落としたり衝撃が加わらないようにしてください。（破損・水漏れ・性能低下の原因となります）
- 臭いの種類や付着量によっては、洗浄を行っても臭いが改善しない場合があります。その場合、加湿エレメントの交換をご検討ください。
- 洗浄には、クエン酸と過炭酸ナトリウム以外の洗浄剤は使用しないでください。特に塩素系漂白剤は絶対に使用しないでください。有害ガスの発生や製品故障の原因となります。
- 洗浄剤の取扱いにあたっては、洗浄剤の容器に記載されている注意事項を必ず守ってください。
- 洗浄廃液は関連法規や地方自治体の条例に従って廃液処理を行ってください。（弊社サービス部品をご使用の場合、産業廃棄物処理業者に委託するか、中和処理を行い排水してください。中和の際には、クエン酸10gに対し過炭酸ナトリウム15gを目安に混合し、市販のpH試験紙等でpHが6～8の範囲であることを確認してください）
- 交換後（ご使用済み）の加湿エレメントの廃却については、お客様の所轄地域の処理方法に従い廃却してください。



取付け後の動作確認

1. サービス弁を開ける。
 2. 冬期（加湿時期）に、凍結のおそれのある地域では必ず凍結防止用ヒーターの電源が入っているか確認する。
 3. 試運転を行い、水漏れがないことを確認する。
 4. 試運転後、しばらく運転しない場合は乾燥運転を行ってください。（自動的に乾燥運転を行います。詳しくは製品の取扱説明書・据付工事説明書をご参照ください）
- 夏期は加湿を必要としない場合が多いため、サービス弁を閉じておくことをおすすめします。

三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、再生紙を使用しています。